

2024年3月31日

サンゴ礁ウィーク 2024「サンゴ礁研究最前線」実施報告書

(一社) 日本サンゴ礁学会 教育普及啓発委員会
水山 克・古川真央

去る2024年3月2日に以下の事業を実施したので報告します。

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会が主催する「サンゴ礁ウィーク 2024」に参加する形で、日本サンゴ礁学会に所属する研究者と琉球大学でサンゴ礁を学ぶ大学生・大学院生が、サンゴ礁およびサンゴ礁に生息する生き物等の企画展示を行った。実施は学部生1名、大学院生6名、ポスドク研究員1名、教員2名の計10名で行い、60名の方々にご来場頂き、サンゴ礁保全を取り上げる地元テレビ局の番組（「南の島のミスワリン」RBC琉球放送）でご紹介頂いた。

展示内容は、①沖縄のサンゴ礁の成り立ち、②サンゴ礁を造る生き物（サンゴと有孔虫）やそこに暮らす生き物、③サンゴを食べる生き物（ウニとブダイ）、④サンゴ礁生物が発する音、⑤サンゴ礁潮間帯の生き物（タッチプール）、⑥若手研究者らによるポスター発表、等の五感を使って様々な視点からサンゴ礁生態系について学んでもらえるよう工夫を凝らした。また、今回初の試みとしては、「サンゴの白化＝死亡ではなく、回復することもある」ということを伝える目的で、温度変化により変色する樹脂を用いたサンゴ模型を水槽に沈め、ヒーターによる加熱とチューブポンプによる冷却により、サンゴの白化と回復を再現するコンテンツを作成した。

コロナ禍以前に実施していた同様の企画展示と比べ、開催日が1日のみ、来場者数は半数以下であったが、一方で実施学生と来場者の接する時間が以前より長く（1組につき約1時間）、来場者の質問に細やかに答えるなどの密なやり取りを行うことができた。「南の島のミスワリン」進行役の方から、「（この企画展示に参加した）小学生がサンゴについてとても詳しくなっていて驚き・嬉しくなった」というご報告を頂いたことから、沖縄の方々にサンゴ礁の知識を伝播する一定の貢献は果たせたのではないかと考える。

実施した学生からは、来場された方々に直接お話しする機会が得られたことが、今後の研究活動へのさらなる動機付け、またサンゴ礁保全に対する意志の芽生えに繋がったというコメントが寄せられた。

最後になるが、本事業の実施にご協力頂いた、藤田喜久教授（沖縄県立芸術大学）、中村崇准教授（琉球大学）の両氏に厚く御礼申し上げます。また、本事業は、アラムコ・アジア・ジャパン株式会社の寄附による、「サウジアラムコ沖縄サンゴ礁保全活動支援基金助成事業」の支援を一部受けて実施した。

① 実施の様子



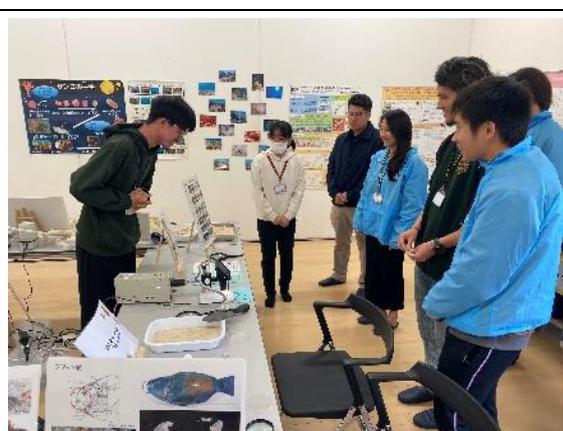
会場の様子*



サンゴの白化と回復の展示*



地元テレビ局取材の様子*



実施者間での説明練習



サンゴ礁生物の音の展示



サンゴポリプの顕微鏡観察

*次項のリンクから動画の閲覧が可能。

② Youtube リンク

- ・会場の様子

<https://youtu.be/roLlAHomQng?si=hdBAqIXp6U2jKL13>

- ・サンゴの白化と模型の展示

<https://youtu.be/8jPFrrcf1Vc>

- ・南の島のミスワリン 第 149 回放送分

(RBC 琉球放送、3 月 30 日(土) 13 時 30 分放送)

https://youtu.be/vmigIB6ik_c?si=823b6j2ct4VRZS1H&t=695

③ 実施者・協力者 (所属・学年等は実施当時)

(実施者)

栗原晴子、琉球大学理学部、教授

水山克、名桜大学人間健康学部、准教授

濱本耕平、産業技術総合研究所、日本学術振興会特別研究員 PD

古川真央、琉球大学大学院理工学研究科、博士後期課程 2 年

鈴木陽樹、琉球大学大学院理工学研究科、博士前期課程 2 年

山口大登、琉球大学大学院理工学研究科、博士前期課程 2 年

阿部友子、琉球大学大学院理工学研究科、博士前期課程 1 年

木村ルカ豊、琉球大学大学院理工学研究科、博士前期課程 1 年

ライラ笑太、琉球大学大学院理工学研究科、博士前期課程 1 年

池村優利恵、琉球大学理学部海洋自然科学科生物系、4 年次

追着あゆみ、琉球大学理学部海洋自然科学科生物系、3 年次

(協力者)

藤田喜久、沖縄県立芸術大学、教授

中村崇、琉球大学理学部、准教授